

【別紙様式】

# 令和5年度教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	学 校 名
5802	中津高等学校定時制

学校教育目標	<p>1 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。                  2 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会的担い手としての調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。</p>		
スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信を持って自らの人生を切り拓くことのできる生徒</li> <li>協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒</li> <li>様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導</li> <li>少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展</li> <li>様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒</li> <li>仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒</li> <li>卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒</li> </ul>
教育指導の重点 (今年度の具体的な重点目標)	重点目標の達成に必要な主な具体的取組、方策		達成度の判断、判定基準あるいは評価指標
1 生徒一人一人の学習能力の把握と、基礎的な知識・技能の確実な習得を目指す授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教材の精査、学習内容の精選、指導法の工夫を進めます。</li> <li>②職員連絡会を毎日行い、授業における生徒の意欲や取組状況を継続的に情報交換して、個に応じたきめ細やかな学習指導を目指します。</li> <li>③学習到達度の低い生徒に対して「学び直し」の機会を設けます。</li> <li>④ICT機器の活用を推進して、生徒の学びの充実を図ります。</li> <li>⑤評価の観点と基準を明示したシラバスを作成して、年度当初に説明します。</li> <li>⑥観点別評価についての検証を行い、評価の最適化を進めます。</li> </ul>		<p>定期考査、授業観察、生徒及び保護者アンケート、授業アンケート等を利用して評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の資質向上を目指した校内研修の実施。</li> <li>②毎日の職員連絡会の実施と学習指導への活用。</li> <li>③成果分析と個への対応の実施。</li> <li>④ICT機器の教授、採点への導入。</li> <li>⑤評価の観点、基準のシラバスへの反映。</li> <li>⑥より適切に学力を把握できているか。</li> </ul>

教育指導の重点 (今年度の具体的な重点目標)	重点目標の達成に必要な主な具体的取組、方策	達成度の判断、判定基準あるいは評価指標
2 自主的・自律的な生活態度の育成及び自己有用感を醸成する。	① コロナ禍で休止していた教育活動や行事を工夫して再開します。 ② 学校行事の中で、生徒が活躍したり計画・立案・運営したりする場を創出します。 ③ 生徒の成長や長所、課題を見出し、言葉にして伝えます。 ④ 部活動の活性化を図ります。	学校行事の実施と内容の検証、生徒及び保護者アンケート等を利用して評価します。 <b>①</b> 休止していた活動、行事の再開、再生。 <b>②</b> 学校行事の実施内容の検証。 <b>③</b> 職員連絡会での生徒情報の交換と共有。 <b>④</b> 部活動の推奨と活動生徒数の増加。
3 集団や社会の一員としての自覚を深め、他者理解や協調性の育成を図る。	① 旭星祭、球技大会、食に関わる行事等を通して、生徒間で協働する機会を設けます。 ② 保護者や同窓会の方、外部人材との連携の中で社会性を高めます。 ③ 生活体験発表会の実施を通して、他者と気持ちを交流する機会を設けます。 ④ 就労、アルバイトを推奨します。	学校行事の実施と内容の検証、生徒及び保護者アンケート、行事ごとの成果物等を利用して評価します。 <b>①</b> 生徒の参加状況の観察と評価。 <b>②</b> 外部講師の招聘、交流行事の実施状況及び生徒アンケートによる検証。 <b>③</b> 生徒の成果物及び相互評価。 <b>④</b> 就労、アルバイト等の社会参加する生徒数の増加及び変容。
4 生徒の特性を理解し、支援する体制を確立する。	① 生徒の実態を正しく理解し、個々に応じた支援を実践していくために、職員研修を行い職員のスキルアップに努めます。 ② 毎日職員連絡会を行い、生徒の行動や心のあり方について情報共有を密に行います。 ③ 保護者、SC、地域支援センター、市役所の福祉課、医療等と連携を図り、生徒にとって望ましい支援方法を模索します。	課題に合致した研修とその実践、職員連絡会の実施と成果、生徒理解のための外部連携の実践等により評価します。 <b>①</b> 研修実施とその実践。 <b>②</b> 職員連絡会の実施とその成果の検証。 <b>③</b> 外部連携の有無とその成果の検証。
5 キャリア形成を促し、自らよりよい生き方を選択できる態度と能力を育成する。	① 1年次：基礎となる社会性を育成します。 ② 2年次：組織の中で他者と考えを交え、協働して問題解決にあたる能力を育成します。 ③ 3年次：自らの生き方を考え必要な情報を収集し、進路設計を立てます。 ④ 4年次：自らの生き方を選び取り、それを実現するための態度と能力を育成します。	生徒への進路情報の提供、段階的なキャリア形成プランの設計、生徒及び保護者の評価、進路実績等により評価します。 <b>①</b> 教育相談、進路相談の活用。 <b>②</b> 職員連絡会の実施と情報共有。 <b>③</b> 外部連携の有無とその成果の検証。 <b>④</b> 社会性、勤労観の変容。

